

**(品目別需給編)**

# 1 小麦

## (1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

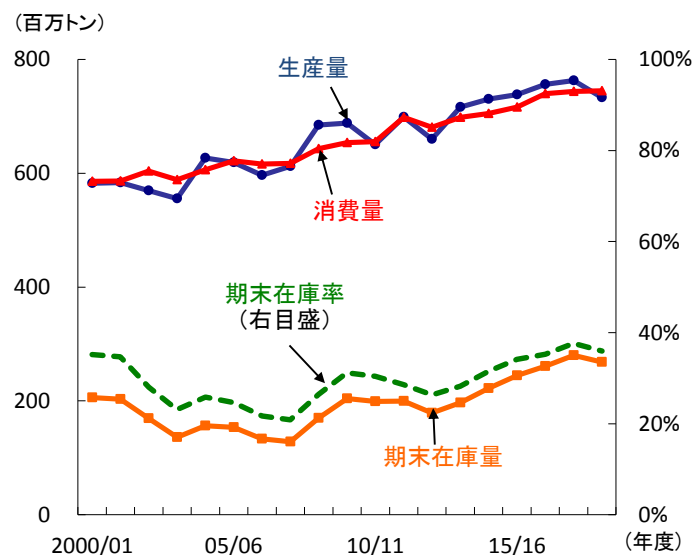
<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量	前年度比	↓
消費量	前年度比	↑
輸出量	前年度比	↓

・前年度に比べ、米国等で増加もロシア等で減少し、前年度を下回る見込み。

期末在庫量	前年度比	↓
-------	------	---



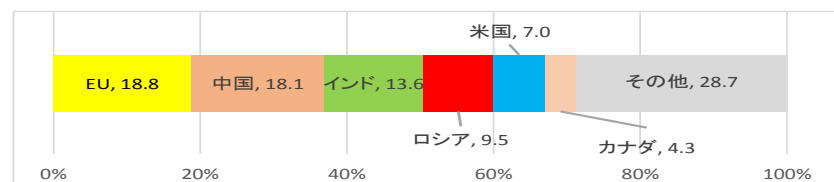
注：USDA「PS&D」(2018.12.11)をもとに農林水産省で作成。

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

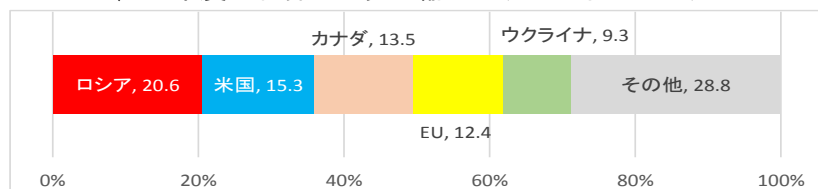
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	756.5	763.1	733.4	▲ 0.1	▲ 3.9
消費量	739.9	744.2	745.3	▲ 0.5	0.1
うち飼料用	147.6	147.7	142.0	1.0	▲ 3.9
輸出量	183.4	181.2	177.4	▲ 1.4	▲ 2.1
輸入量	178.9	179.2	175.8	▲ 0.0	▲ 1.9
期末在庫量	261.0	279.9	268.1	1.4	▲ 4.2
期末在庫率	35.3%	37.6%	36.0%	0.2	▲ 1.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」(11 December 2018)

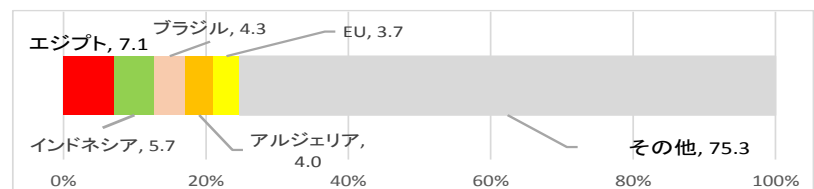
### ○ 2018/19 年度の世界の小麦の生産量 (733.4 百万トン) (単位：%)



### ○ 2018/19 年度の世界の小麦の輸出量 (177.4 百万トン)



### ○ 2018/19 年度の世界の小麦の輸入量 (175.8 百万トン)



注：シカゴ商品取引所による 2018 年 7 月 27 日までの毎週金曜日までの期近価格である。

(3) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生産動向・その他】IGC(国際穀物理事会)の1月報告によれば、一部の地域で2019/20年度産の硬質赤色冬小麦(HRW)の作付けが降雨過多で完了しなかったが、潤沢な降雨により冬小麦の概ね生育状況は良好とみられる。

【貿易動向】米中通商協議において、中国は米国産農産物の輸入拡大を行う意向であり、今後の米国産小麦の7.0百万トンの輸入について報道された。

小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.3	-	8.3
消費量	31.9	29.3	31.3	-	6.6
うち飼料用	4.4	1.4	3.0	-	119.9
輸 出 量	28.6	24.5	27.2	▲ 0.7	11.0
輸 入 量	3.2	4.3	3.8	-	▲ 11.0
期末在庫量	32.1	29.9	26.5	0.7	▲ 11.3
期末在庫率	53.1%	55.5%	45.3%	1.7	▲ 10.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.19	16.03	-	5.5
単収(t/ha)	3.54	3.12	3.20	-	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)の1月報告によると、生産量は、前月に比べデュラム小麦が僅かに下方修正され5.7百万トン、デュラムを除く小麦(普通小麦)が0.7百万トン下方修正され25.3百万トンとなることから、計31.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCの1月報告によると、輸出量は、前月に比べ普通小麦を除く小麦が0.5百万トン上方修正され、全体で22.9百万トンの見込み。昨年8月以降の輸出ペースが増加したことが要因。この結果、期末在庫量は0.2百万トン下方修正され、6.0百万トンの見込み。(P5の参考も参照)

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.8 (31.0)	0.3	6.1
消費量	10.8	9.2	9.3 (8.4)	0.3	1.5
うち飼料用	5.8	4.3	4.3 (3.9)	0.3	0.9
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.9)	-	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	6.2	5.1 (6.0)	-	▲ 17.0
期末在庫率	22.2%	19.9%	15.4% (19.2%)	▲ 0.1	▲ 4.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.90 (9.82)	0.10	10.2
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (3.16)	-	▲ 3.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(25 January 2019)

< 豪州 >

【生育・生産状況】 IGC の 1 月報告によれば、2018/19 年度の生産見通しは前年度 (21.2 百万トン) より 22% 減の 16.6 百万トンの見込み。2007/08 年度以来の低水準。収穫は 12 月に終了している。東部は干ばつに見舞われ減産となったが、ウェスタンオーストラリア州は降雨に恵まれ豊作。

【貿易情報・その他】 IGC によれば、2018/19 年度の輸出量は、干ばつによる減産から 2 年連続して減少となり、10.0 百万トンの見込み。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位: 百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、( ) は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	31.8	21.3	17.0 (16.6)	▲ 0.5	▲ 20.2	
消費量	7.5	7.5	9.0 (8.6)	0.5	20.3	
うち飼料用	4.0	4.0	5.5 (5.2)	0.5	37.5	
輸出量	22.6	14.0	10.5 (10.0)	▲ 1.0	▲ 25.0	
輸入量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-	
期末在庫量	5.7	5.7	3.4 (3.8)	-	▲ 41.2	
期末在庫率	19.0%	26.5%	17.2% (20.5%)	0.4	▲ 9.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	10.00 (9.96)	▲ 0.80	▲ 18.4	
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.70 (1.67)	0.08	▲ 2.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(24 January 2019)

< EU >

【生育・生産状況】 IGC の 1 月報告によると、2018/19 年度の生産量は 137.7 百万トンの見込み。

2019/20 年度は、菜種と比べ小麦の収益性が良好なため、小麦へ作付けが転換されることから収穫面積は 5% 増加し、26.6 百万ヘクタールの見通し。EU 北部で作付期の秋は乾燥していたが、最近の降雨により土壌水分が改善された。

【貿易情報・その他】 IGC の 1 月報告によると、2018/19 年度の輸出量は、前年度 (23.6 百万トン) より減少し、21.0 百万トンの見込み。

小麦—EU (冬小麦を主に栽培)

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位: 百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、( ) は EU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	145.4	151.3	137.6 (137.4)	-	▲ 9.0	
消費量	128.0	130.4	125.0 (128.6)	-	▲ 4.1	
うち飼料用	56.0	58.0	53.0 (55.0)	-	▲ 8.6	
輸出量	27.4	23.3	22.0 (21.2)	▲ 1.0	▲ 5.5	
輸入量	5.3	5.8	6.5 (6.0)	-	11.7	
期末在庫量	10.7	14.1	11.2 (13.2)	1.0	▲ 20.5	
期末在庫率	6.9%	9.2%	7.6% (8.8%)	0.7	▲ 1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.23	26.08	25.55 (25.56)	-	▲ 2.0	
単収(t/ha)	5.34	5.80	5.39 (5.4)	-	▲ 7.1	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
USDA 「PS&D」 ((11 December 2018)  
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」 (20 December 2018)

< 中国 >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、中国糧油情報センターによると、前月からの改訂はなく、131.5百万トン(対前年度比2.1%減)の見込み。

2019/20年度の冬小麦は主産地の華北地域を中心に休眠期に入っている。中国中央気象台によると、作柄は直近5年の同期より良くなっている。

【貿易情報・その他】2018年1月～11月までの小麦及び小麦製品の輸入量は2.8百万トン(前年度同期比32%減)となった。主な輸入先はカナダ(42.6%)、カザフスタン(18.1%)、ロシア(5.6%)。なお、米中通商協議において、中国は米国産農産物の輸入拡大を行う意向であり、今後の米国産小麦の7.0百万トンの輸入について報道された。

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア連邦統計庁の2018年12月28日報告によれば、2018年産小麦の収穫量は72.1百万トンであり、前年産(86.0百万トン)より16%減産となったものの、2016年産(73.3百万トン)について史上3番目の豊作となった。

2019/20年度産に関しては、欧州地域、アジア地域ともに大部分の地域で概ね越冬に適した気象条件となる見込み。

【貿易情報・その他】農業省によれば、2018年7～12月の小麦輸出は前年同期比13.5%増の24.3百万トンとなった。当該期間における穀物の主な輸出先はエジプト(5.2百万トン、全体の18%)、トルコ(3.4百万トン、11%)、サウジアラビア(1.2百万トン、4%)、ベトナム(1.2百万トン、4%)、ナイジェリア(1.2百万トン、4%)。なお、ベトナム向け小麦輸出については、ロシアが参加しているユーラシア経済連合(他にベラルーシ、カザフスタン、アルメニア、キルギスが参加)とベトナムとの間で発効した発効自由貿易協定(VN-EAEU FTA)により、増加している。

農業省は12月時点で2018/19年度の小麦の輸出見通しを37.0百万トンに引き上げており、本年1月16日には、現時点では予測を下方修正したり、輸出を制限したりする予定はないと発表した。しかしながら、市場関係者によれば、農業省が穀物トレーダーらに対して、穀物輸出のペースを落とすよう非公式に呼びかけているとの報道があり、引き続き注視する必要がある。

小麦－中国 (冬小麦を主に栽培)

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.3	134.3	132.5 (134.7)	-	▲ 1.4
消費量	119.0	121.0	123.0 (127.8)	-	1.7
うち飼料用	17.0	17.5	18.0 (20.0)	-	2.9
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.1)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	4.0 (4.1)	-	-
期末在庫量	114.9	131.3	143.6 (124.7)	-	9.4
期末在庫率	96.0%	107.6%	115.6% (96.7%)	-	8.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.69	24.51	24.21 (24.88)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	5.40	5.47	5.47 (5.41)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

IGC 「Grain Market Report」(24 January 2019)

小麦－ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	70.0 (71.6)	-	▲ 17.6
消費量	40.0	43.0	40.5 (43.0)	-	▲ 5.8
うち飼料用	17.0	20.0	18.0 (19.0)	-	▲ 10.0
輸 出 量	27.8	41.4	36.5 (33.7)	1.5	▲ 11.9
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.4
期末在庫量	10.8	11.9	5.4 (10.9)	▲ 0.5	▲ 54.8
期末在庫率	16.0%	14.1%	7.0% (14.2%)	▲ 0.8	▲ 7.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.00 (26.97)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.69 (2.66)	-	▲ 13.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

IGC 「Grain Market Report」(24 January 2019)

(参考)カナダ産小麦の2018年産の品質と2019年産の作付見通し (カナダ農務農産食品省(AAFC)レポート 2019年1月25日)

○2018年産の品質

・普通小麦

1～2等比率は、2017年産(92%)から低下し、75%。しかし、過去10年平均(71%)を上回り良好。  
 蛋白レベルは、13.6%と、2017年度(13%)、過去10年平均(13.5%)を上回り良好。

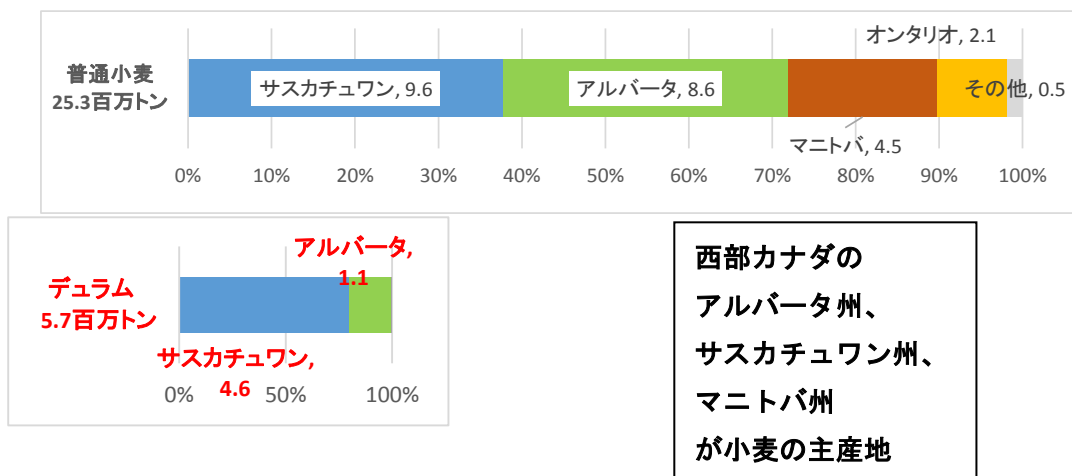
・デュラム

1～2等比率は、2017年産(91%)から低下し、85%。しかし、過去10年平均(57%)を上回り良好。  
 蛋白レベルは、14.1%と、2017年度(13.6%)、過去10年平均(12.9%)を上回り良好。

○2019年度の作付動向

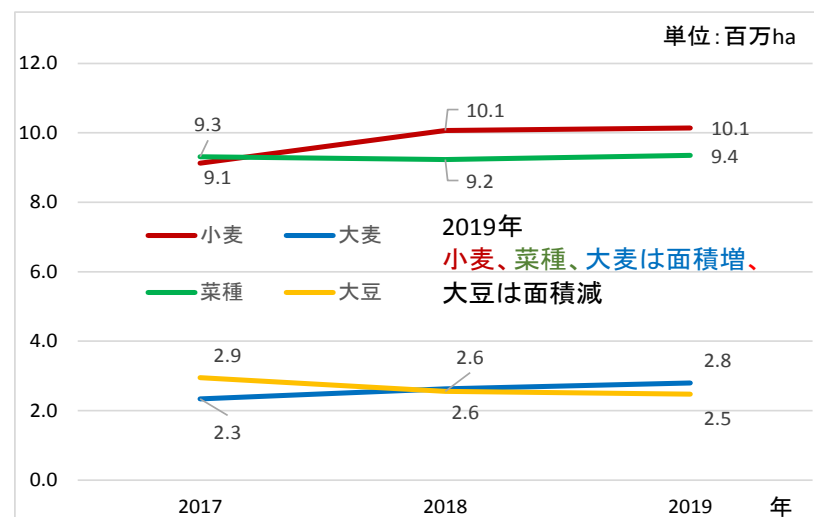
- ・マニトバ、サスカチュワン州での大豆からの転換等によりカナダ全体で小麦、大麦、菜種の作付面積が増加する見込み。
- ・小麦では、普通小麦の収益性がデュラムより良いことから、普通小麦が前年(7.6百万ヘクタール)より増加し、8.3百万ヘクタール、一方デュラムは前年(2.5百万ヘクタール)より減少し1.9百万ヘクタール。小麦全体では10.1百万ヘクタールとなる見込み。

図1 2018年産小麦の州別生産内訳



出典：AAFC 農産物需給見通し(2019.1.25)を農林水産省で加工

図2 最近3年間の品目別作付面積の推移



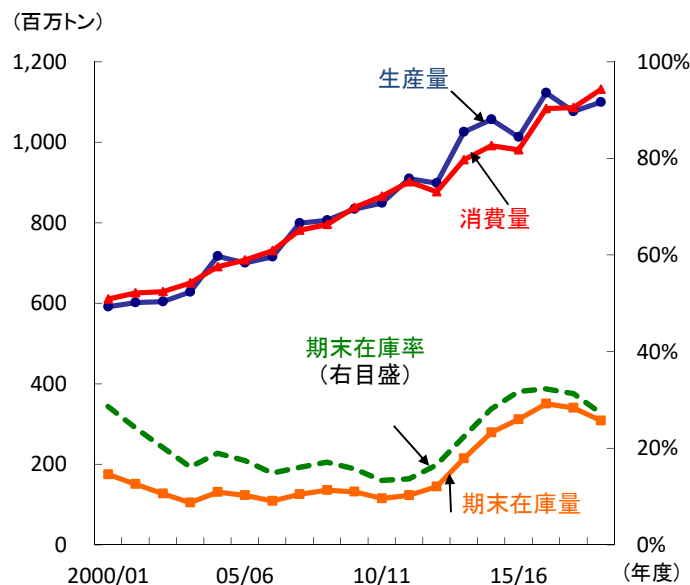
## 2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

<b>生産量</b>	<b>前年度比</b>	<b>↑</b>
<b>消費量</b>	<b>前年度比</b>	<b>↑</b>
<b>輸出量</b>	<b>前年度比</b>	<b>↑</b>
<b>期末在庫量</b>	<b>前年度比</b>	<b>↓</b>



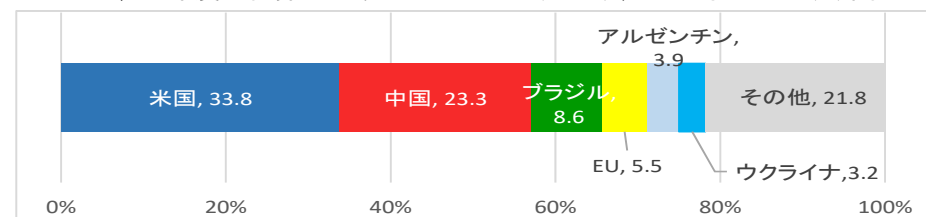
USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万トン)

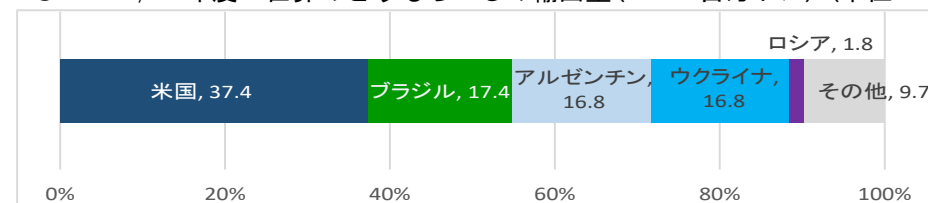
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,122.4	1,076.2	1,099.9	1.0	2.2
消費量	1,083.6	1,086.2	1,131.3	▲ 1.0	4.2
うち飼料用	656.0	670.1	698.7	2.1	4.3
輸出量	160.1	148.0	166.5	0.8	12.5
期末在庫量	350.2	340.2	308.8	1.3	▲ 9.2
期末在庫率	32.3%	31.3%	27.3%	0.1	▲ 4.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 December 2018)

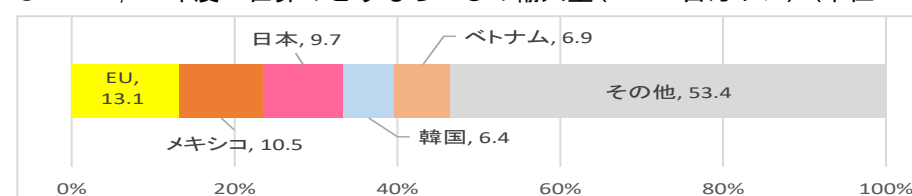
○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,099.9百万トン) (単位: %)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸出量(166.5百万トン) (単位: %)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸入量(159.7百万トン) (単位: %)



資料: USDA 「WASDE」 (2018. 12. 11) をもとに農林水産省にて作成

## とうもろこしー米国

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	371.5	-	0.2
消費量	313.8	313.8	319.6	▲ 1.3	1.8
うち飼料用	138.9	134.6	139.7	-	3.8
エタノール用等	138.0	142.4	142.2	▲ 1.3	▲ 0.1
輸 出 量	58.3	61.9	62.2	-	0.5
輸 入 量	1.5	0.9	1.1	▲ 0.1	23.9
期末在庫量	58.3	54.4	45.3	1.2	▲ 16.8
期末在庫率	15.7%	14.5%	11.9%	0.3	▲ 2.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.09	-	▲ 1.1
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.23	-	1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (11 December 2018)

### (2) 国別のとうもろこしの需給動向

#### < 米国 >

【生育・生産状況】1月24日に公表された、国際穀物理事会(IGC)の需給報告によると、2018/19年度の米国のとうもろこし生産量は、371.5百万トンである。

【貿易情報・その他】米国産とうもろこしは、米ドル安も受け、安価な飼料用穀物としての需要が高い。USDAの輸出検証高によると、日本、韓国などの東アジア、メキシコ、ペルーなどの中南米向けが多くなっている。米中通商協議において、中国は米国産農産物の輸入拡大を行う意向であり、今後の米国産とうもろこしの3.0百万トンの輸入について報道された。

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## とうもろこしーアルゼンチン

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	32.0	42.5 (49.5)	-	32.8
消費量	11.2	11.9	12.4 (22.5)	-	4.2
うち飼料用	7.5	8.0	8.5 (17.5)	-	6.3
輸 出 量	26.0	23.0	28.0 (29.0)	-	21.7
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	2.4	4.5 (6.9)	-	88.2
期末在庫率	14.2%	6.8%	11.1% (13.7%)	-	4.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	4.90	5.20	5.20 (6.88)	-	-
単収(t/ha)	8.37	6.15	8.17 (7.20)	-	32.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (11 December 2018)  
IGC 「Grain Market Report」 (24 January 2019)



## とうもろこしーブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	98.5	82.0	94.5 (93.5)	-	15.2	
消費量	60.5	64.5	66.5 (65.2)	-	3.1	
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (52.0)	-	1.8	
輸 出 量	31.6	23.5	29.0 (29.5)	-	23.4	
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.5)	-	-	
期末在庫量	14.0	9.0	9.0 (7.1)	▲ 1.5	-	
期末在庫率	15.2%	10.3%	9.4% (7.5%)	▲ 0.0	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.50 (17.52)	-	5.4	
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.40 (5.34)	-	9.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(24 January 2019)

## < ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル食料供給公社(Conab)によると、2018/19年度とうもろこし(夏とうもろこし、冬とうもろこしの合計)の作付面積は、16.7百万ヘクタール(前年度比0.1%増)、生産量は、91.1百万トン(前年度比12.9%増)の見込みである。うち、夏とうもろこしは、27.4百万トン(前年度比2.1%増)、冬とうもろこしは、63.7百万トン(前年度比18.1%増)である。

【貿易情報・その他】2018年1月から12月までの貿易統計によると、とうもろこしの輸出量は、23.6百万トンであり、前年度より5.7百万トン減少した。輸出先は、イラン、ベトナム、エジプト、スペイン等であり、イランが最も多い。

## < 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センターの1月9日付け情報によると、生産量は、257.3百万トン。前年度(259.1百万トン)よりわずかに減産となる見通し。これは、大豆等への作付転換による作付面積の減少が要因である。

【需要状況】11月の新穀とうもろこしの収穫の遅れに伴う買付遅れや、生産コストの上昇から国内とうもろこし価格は全体的に上昇した。今後、新穀の買付けの進展により、継続的な価格の上昇の可能性は少ないとみられる。

【貿易情報・その他】中国税関の通関統計によると、12月の輸入量は、41.7万トンで前年同期の45.4万トンより減少したものの、年間では前年比25%増となる3.5百万トンとなった。

## とうもろこしー中国

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	263.6	259.1	256.0 (219.9)	-	▲ 1.2	
消費量	255.0	263.0	276.0 (245.9)	-	4.9	
うち飼料用	185.0	187.0	194.0 (150.6)	-	3.7	
輸 出 量	0.1	0.0	0.1 (0.1)	-	150.0	
輸 入 量	2.5	3.5	5.0 (4.5)	-	44.1	
期末在庫量	223.0	222.5	207.5 (167.1)	-	▲ 6.8	
期末在庫率	87.4%	84.6%	75.2% (67.9%)	-	▲ 9.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.18	42.40	41.50 35.6	-	▲ 2.1	
単収(t/ha)	5.97	6.11	6.17 (6.18)	-	1.0	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)  
IGC 「Grain Market Report」(24 January 2019)

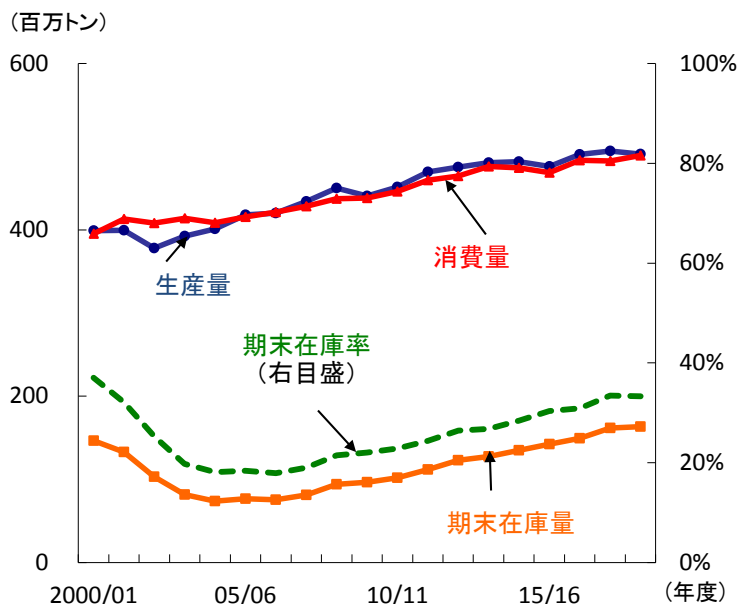
### 3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

＜米国農務省 (USDA) の見通し＞

2018/19 年度

<b>生産量</b>	前年度比	↓
<b>消費量</b>	前年度比	↑
<b>輸出量</b>	前年度比	↓
<b>期末在庫量</b>	前年度比	↑



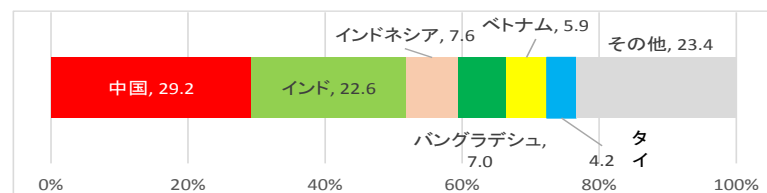
資料 : USDA 「PS&D」 (2018. 12. 11) をもとに農林水産省にて作成

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万精米トン)

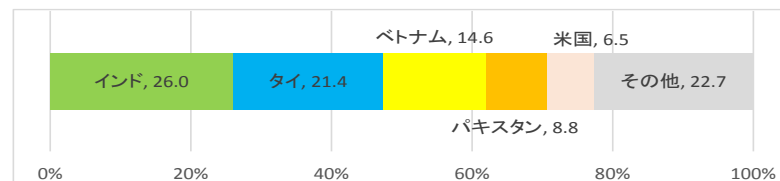
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	490.8	495.1	491.1	0.4	▲ 0.8
消費量	483.8	482.8	489.6	1.2	1.4
輸出量	47.3	47.3	48.1	▲ 0.8	1.6
輸入量	41.3	47.4	45.3	▲ 1.1	▲ 4.5
期末在庫量	149.4	161.7	163.3	0.2	1.0
期末在庫率	30.9%	33.5%	33.3%	▲ 0.0	▲ 0.1

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (11 December 2018)

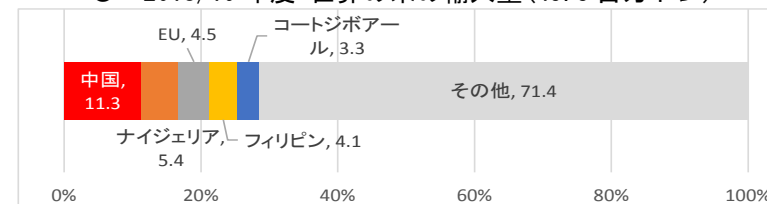
○ 2018/19 年度 世界の米の生産量 (491.1 百万トン) (単位 : %)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸出量 (48.1 百万トン)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸入量 (45.3 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ沿いで栽培  
カリフォルニア州の全米に占める生産シェアは約2割

【貿易情報・その他】 昨年12月に対中国輸出が解禁されたが、中国国内の米の流通価格が下落していることや、従来から中国向けに輸出されているタイやベトナム産米の方が、米国产と比較して価格競争力があり、かつ輸送コストも安いいため、今のところ大幅な輸出増加はないとみられている。

< インド >

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと一般的に呼ぶ。北部はカリフ・ラビの二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】 南インドのタミルナード州では生殖成長期、南東部のオリッサ州、北東部のアッサム州等では播種期となっている。ラビ米の作付けは、カリフ米の収穫遅れや価格低迷から遅れており、作付面積は1月18日時点で1.40百万ヘクタール（前年同期比25%減）となっている。

なお、IGCの1月報告によれば、生産量はラビ米の作付面積減から2.0百万トン下方修正され、111.5百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】 12月31日付けの政府報道局プレスによれば、2019年4月～10月のバスマティ米の輸出量は2.29百万トンと前年同期(2.37百万トン)を3.3%下回ったが、輸出額は逆に1,696億ルピーと前年同期(1,521億ルピー)を12%上回った。高単価の米輸出が増加している。

また、2018年12月には、政府政策の「2022年までに農家の所得倍増する計画」を達成するための2018年農産物輸出政策を議会が承認した。昨年11月28日から本年3月25日まで限定で非バスマティ米輸出に5%の輸出補助金を交付している。

米－米国

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	6.9	-	22.4
消費量	4.2	4.3	4.2	-	▲1.4
輸出量	3.7	2.8	3.1	0.1	13.8
輸入量	0.8	0.9	0.9	0.02	7.1
期末在庫量	1.5	0.9	1.4	▲0.1	50.5
期末在庫率	18.5%	13.2%	19.0%	▲1.3	5.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.17	-	21.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.43	-	0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

米－インド

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	112.9	111.0 (111.5)	-	▲1.7
消費量	95.8	98.7	100.0 (100.0)	-	1.4
輸出量	11.8	12.2	12.5 (12.1)	-	2.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.6	21.1 (22.1)	-	▲6.6
期末在庫率	19.1%	20.4%	18.8% (19.7%)	-	▲1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	43.79	44.00 (0.04)	-	0.5
単収(もみt/ha)	3.74	3.87	3.78 (2.58)	-	▲2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)  
IGC 「Grain Market Report (24 January 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

【生育・生産動向】中国国家统计局の昨年12月14日公表の収穫量報告では、作付面積の減少から、生産量は前年度よりわずかに減産の2億1,213万トン(粳ベース)の見通し。

【貿易情報・その他】物資備蓄局等によると、生産農家の所得補償等のための2018年産中晩期インディカ米の買上げ数量は1月10日時点で3,107万トン(前年比9万トン増)、ジャポニカ米の買上げ数量は3,645万トン(前年比521万トン減)。

1-11月の輸入量は280万トンで前年同期比22%減。主要輸入先はベトナム(シェア50%)、タイ(30%)、パキスタン(10%)。一方、1-11月の輸出量は179万トンで、前年同期比59.2%増。主要輸出先は、コートジボアール(24.2%)、ギニア(8.6%)、トルコ(7.6%)等。

農業農村部の1月公表の「農産品供需形勢分析月報」(12月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれキログラム当たり換算で3.82元、4.06元、4.08元で、前年同月と比較して下落も、前月よりは上昇に転じ、ジャポニカ米が晩期インディカ米を上回った。

< タイ >

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】タイ農業協同組合省の1月報告によれば、雨季作の生産量は10月報告から北東部の乾燥の影響により下方修正され、24.22百万トン(粳ベース)と前年産(24.93百万トン)より3%減少する見込み。一方、乾季作の作付けは1~2月にかけて行われるが、生産量は7.86百万トンと前年度(8.55百万トン)より8%減少する見通し。北東部の乾燥やとうもろこしへの転作による作付面積の減少が要因。

【貿易情報・その他】2018年1~11月のタイ米の輸出量は、2017年1~11月と比較して、10.08百万トンで4.2%減少したが、輸出額は1,631億バーツで3.7%の増加となった。高品質米の輸出が増加したため、輸出額が増加した。

米-中国

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	147.8	148.9	143.6 (141.8)	-	▲ 3.6
消費量	141.8	142.5	142.8 (145.0)	-	0.2
輸出量	0.8	1.4	1.8 (2.2)	-	29.5
輸入量	5.3	5.5	5.0 (4.6)	-	▲ 9.1
期末在庫量	98.5	109.0	113.0 (74.2)	-	3.7
期末在庫率	69.1%	75.8%	78.2% (50.4%)	-	2.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.75	30.06 (29.45)	-	▲ 2.2
単収(もみt/ha)	6.87	6.92	6.82 (4.81)	-	▲ 1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 December 2018)

IGC 「Grain Market Report (24 January 2019)」 (単収は精米t/ha)

米-タイ

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万精米トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	19.2	20.4	20.7 (20.4)	▲ 0.5	1.6
消費量	12.0	11.0	10.5 (10.4)	0.3	▲ 4.5
輸出量	11.6	10.7	10.3 (10.4)	▲ 0.7	▲ 3.7
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	4.2	3.2	3.3 (3.0)	0.1	4.7
期末在庫率	18.0%	14.6%	15.9% (14.4%)	0.6	1.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	10.96 (10.50)	▲ 0.18	2.6
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.86 (1.94)	▲ 0.02	▲ 1.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 December 2018)

IGC 「Grain Market Report (24 January 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム>

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒（インディカ）を栽培  
次ページ（参考）も参照

【生育・生産動向】 秋冬作は収穫期、冬春作は作付け期を迎えている。

秋冬作は、76万ヘクタール作付けされたが、11月半ばで収穫率は54%で、生産量は前年度より34万トン減の3.9百万トンの見込み。

冬春作については11月半ば現在の作付面積は前年同時期を上回っている

【貿易情報・その他】 価格については、1月の国内卸売価格は前月と変わらず。

1月～11月前半までの輸出数量は5.74百万トンと前年同時期の5.44百万トンを上回っている。最大の輸出先の中国向けは減少も、インドネシア、フィリピン向けが増加。特にインドネシア向け輸出が前年同期比65.8倍と目立っている。

なお、中国が米国産米の輸入を昨年12月末に解禁したが、今のところベトナム産米の方が米国産米に比べて価格競争力があり、輸送コストも安いとみられる。

## 米－ベトナム

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.4	28.5	29.1 (28.6)	-	2.1	
消 費 量	22.0	22.0	22.2 (22.4)	0.1	0.9	
輸 出 量	6.5	6.7	7.0 (6.7)	-	4.5	
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.5)	-	-	
期末在庫量	1.0	1.1	1.4 (2.5)	-	23.7	
期末在庫率	3.4%	4.0%	4.8% (8.6%)	▲ 0.0	0.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.71	7.69	7.76 (7.73)	-	0.9	
単収(もみt/ha)	5.68	5.92	5.99 (3.70)	-	1.2	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(11 December 2018)

IGC「Grain Market Report (24 January 2019)」(単収は精米t/ha)

**(参考)ベトナムの短粒米の需給・価格**  
**(北部山岳地帯・メコンデルタ西部で栽培)**

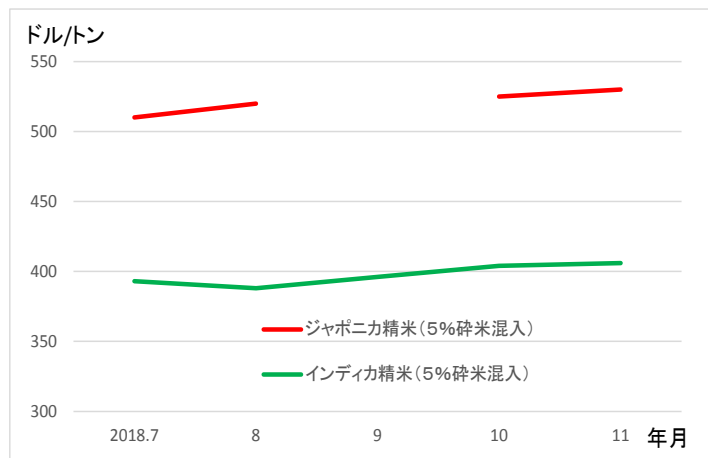
＜需給＞ (図1参照)

- ・正式な統計はないが、農業・農村開発省、地方局によれば、ベトナムの米生産のうち、一部でジャポニカ米を含む短粒種を作付け。そのうち、もち米が5～7割、うるち米が3～5割。主産地は、北部山岳地帯(もち米)とメコンデルタ西部(ギエンザン省など)(うるち米)。
- ・輸出については、中国、韓国向け他、昨年エジプト向け中・短粒米入札に応札。
- ・昨年10月末には、豪州のサンライス社がメコンデルタのドンタップ省の精米工場を買収。我が国から現地に進出し米生産に投資している企業もある。

＜価格＞ (図2参照)

- ・ジャポニカ米の輸出オファー価格は昨年7月以降、500ドル/トン前後で推移。同等程度のインディカ米より100ドル/トン程度高めの水準で推移。

図2 ベトナムの米の輸出オファー価格の推移(精米ベース)



資料：FAO資料をもとに農林水産省にて作成

注：2018年9月のジャポニカ米についてはオファーがなかった

図1 ベトナムの米の短粒米生産

北部山岳地帯とメコンデルタ西部が主産地



出典：ベトナム農村開発省、地方政府から聞き取り

## II 油糧種子

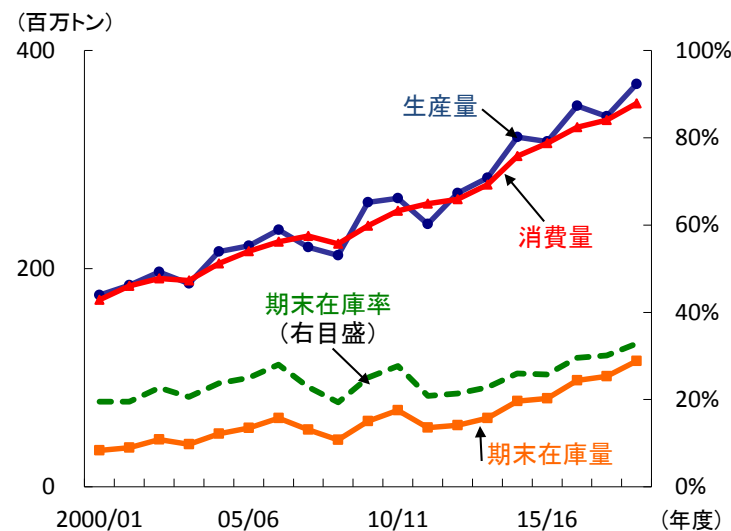
### 1 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞

2018/19 年度

生産量	前年度比	↑
消費量	前年度比	↑
輸出量	前年度比	↑
期末在庫量	前年度比	↑

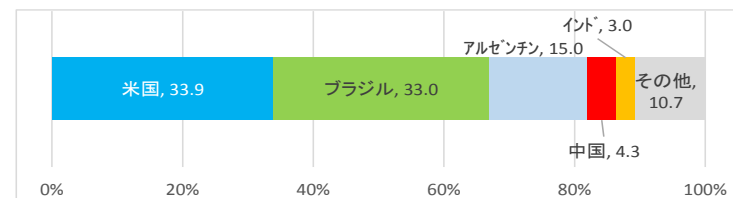


USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

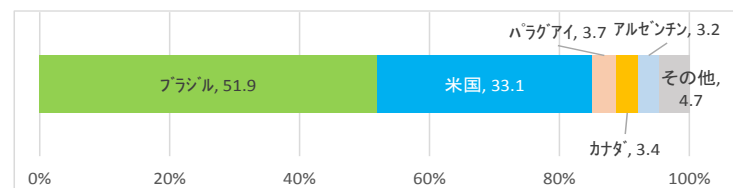
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	349.3	339.5	369.2	▲ 1.7	8.8
消費量	329.7	336.1	351.5	▲ 0.4	4.6
うち搾油用	287.4	295.2	308.2	0.6	4.4
輸 出 量	147.5	153.2	156.1	0.7	1.9
期末在庫量	97.5	101.3	115.3	3.3	13.8
期末在庫率	29.6%	30.1%	32.8%	1.0	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 December 2018)

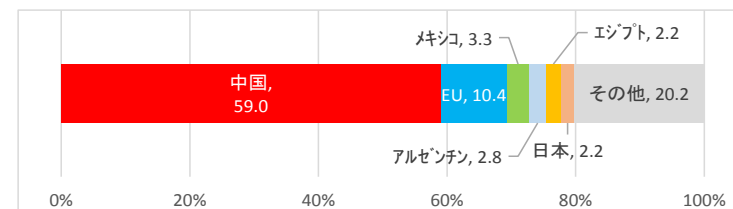
○ 2018/19 年度の世界の大豆の生産量 (369.2 百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸出量 (156.1 百万トン)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸入量 (153.5 百万トン)



資料：USDA「PS&D」(2018.12.11)をもとに農林水産省で作成。

## (2) 国別の大豆の需給動向

### < 米国 >

【貿易情報・その他】12月1日の米中首脳会談に引き続き、1月7日～9日の通商協議において、中国が米国産農産物の輸入再開について合意したと発表され、中国の国営企業等の米国産大豆の輸入が開始された。しかし、具体的な品目別の輸入数量については決められていないとみられることから、前年度の輸出量まで回復していない。なお、一時80ドル/トン以上開きのあった米国産大豆とブラジル産大豆のFOB価格の差は縮小している。(図参照)

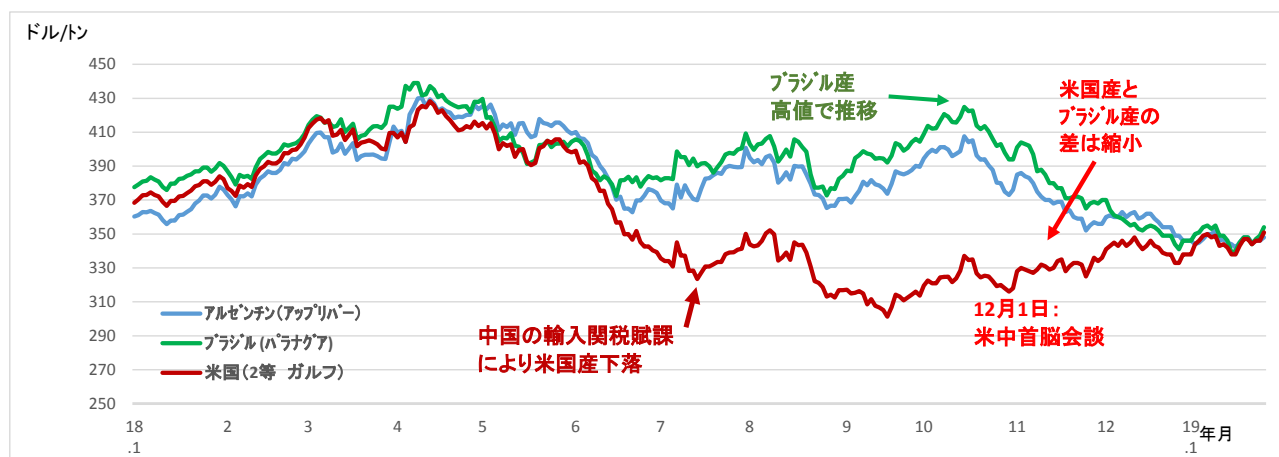
## 大豆－米国

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	120.0	125.2	-	4.3
消費量	55.7	59.0	60.1	-	1.9
うち搾油用	51.7	55.9	56.6	-	1.2
輸 出 量	59.0	58.0	51.7	-	▲ 10.8
輸 入 量	0.6	0.6	0.7	-	15.3
期末在庫量	8.2	11.9	26.0	-	118.1
期末在庫率	7.2%	10.2%	23.3%	0.0%	13.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.47	36.23	35.75	-	▲ 1.3
単収(t/ha)	3.49	3.31	3.50	-	5.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

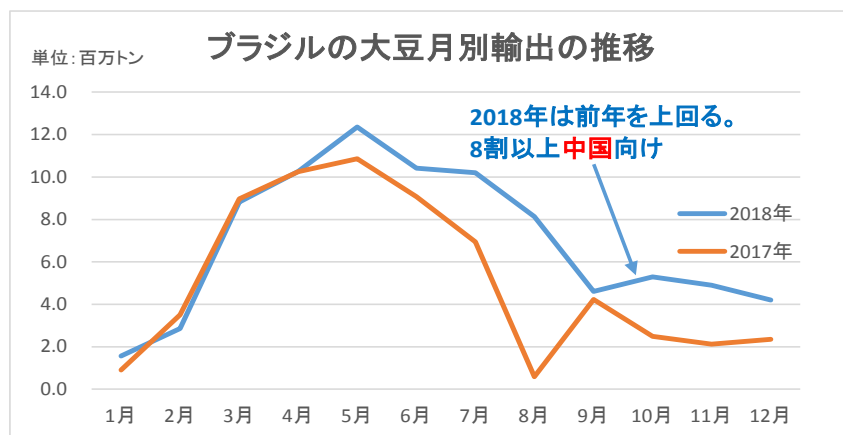


< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社(Conab)によると、主産地である中西部の12月の降雨は、11月と比べ、少なかったものの、影響は軽微である。南部のパラナ州では、地域によっては平均降雨量の半分程度と非常に降雨量が少ない状況である。生産量は、先月(120.1百万トン)より下方修正され、118.8百万トンの見込み。

なお、一部産地での降雨不足や大豆さび病の発生が報道されており、作柄への影響について注視が必要。また、報道によると、今年は大豆収穫が早く進んでおり、例年は1月中旬時点で1%程度の収穫率が、今年はすでに6%に達しているという。

【貿易情報・その他】2018年の輸出量は、年間で83.6百万トンに達し、2017年の68.1百万トンを大きく上回った。輸出先は、中国が大多数(82%)を占めており、その他欧州、中近東諸国へも輸出されている。



資料: ブラジル商工サービス省 (Ministério da Indústria, Comércio Exterior e Serviços)

大豆—ブラジル

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位: 百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はOil.W	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	114.6	120.3	122.0 (117.5)	1.5	1.4	
消費量	43.7	45.9	45.0 (…)	▲ 1.0	▲ 2.0	
うち搾油用	40.4	44.5	42.7 (43.0)	-	▲ 4.0	
輸出量	63.1	76.2	81.0 (72.3)	4.0	6.3	
輸入量	0.3	0.2	0.2 (0.1)	-	11.1	
期末在庫量	26.8	25.2	21.4 (1.0)	0.1	▲ 15.1	
期末在庫率	25.1%	20.6%	16.9% (…)	▲ 0.3	▲ 3.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	33.90	35.15	36.20 (35.76)	▲ 1.30	3.0	
単収(t/ha)	3.38	3.42	3.37 (3.29)	0.16	▲ 1.5	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)  
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(11 January 2019)

ブラジルのクロープカレンダー (2018/19年度) (中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等		作付 5.10(百万ha)						収穫 27.46 (百万t)						収穫夏冬計 91.109									
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 16.65												作付 11.55			収穫 63.73								
大豆	マトグロソ州、パラナ州等												作付 35.76			収穫 118.8						早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種		

資料: CONAB 2019年1月

## < カナダ >

【生育・生産状況】1月のカナダ農務農産食品省(AAFC)によると、2018/19年度について、前月より単収が上方修正(2.86→2.97 トン/ヘクタール)され、生産量は前月より0.2百万トン上方修正されたものの、前年度より0.2百万トン減産となる7.5百万トンの見込み。2019/20年度は、カナダ西部において、乾燥のため、大豆から小麦を始めとする他の作物に移行し、大豆の作付面積が減少し(2.56百万→2.48百万ヘクタール)、生産量は7.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによると、カナダドル安からカナダ産大豆に輸出競争力があるため、2018/19年度の輸出量は、5.5百万トンと史上最高となる見通し。次年度においても、輸出競争力が維持される予測から、2019/20年度の輸出量は5.0百万トンの見込み。

また、AAFCは、大豆の国際的な需給動向については、①中国による大豆購入のペース、②米中間の通商協議の動向、③米国の輸出動向、④南米地域における大豆の生育・収穫状況、⑤カナダドルと米ドルの為替変動、⑥米国農家の作付け意向等に左右されるとしている。

## < アルゼンチン >

【生育・生産状況】ブエノスアイレス穀物取引所の1月24日付け週報によると、2018/19年度の大豆栽培面積は、17.7百万ヘクタールであり、前年度と同じである、作付け進捗率は98.3%であり、生育状況は良いからやや良いが53.1%で、前年の32.0%を上回っている。なお、北部地域の一部では、降雨過多のため、再度作付けを行った。

【貿易情報・その他】2017/18年度は干ばつにより減産となったことから、国内需要を満たすため、輸出量が減少し、輸入量が増加している。

## 大豆－カナダ

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	7.7	7.3 (7.5)	▲ 0.2	▲ 5.4
消費量	2.5	2.9	2.6 (2.4)	-	▲ 10.2
うち搾油用	1.9	1.9	2.0 (…)	-	3.3
輸 出 量	4.6	4.9	5.3 (5.5)	▲ 0.2	7.6
輸 入 量	0.5	0.5	0.6 (0.4)	-	19.1
期末在庫量	0.3	0.6	0.6 (0.4)	-	▲ 7.1
期末在庫率	3.9%	8.1%	7.4% (5.1%)	0.2	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.94	2.55 (2.53)	-	▲ 13.3
単収(t/ha)	2.96	2.63	2.86 (2.97)	▲ 0.08	8.7

資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」(11 December 2018)

AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(25 January 2019)

## 大豆－アルゼンチン

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.0	37.8	55.5 (50.5)	-	46.8
消費量	47.8	41.7	47.9 (…)	-	15.0
うち搾油用	43.3	37.0	43.0 (39.0)	-	16.3
輸 出 量	7.0	2.1	5.0 (12.2)	▲ 3.0	137.0
輸 入 量	1.7	5.1	4.2 (4.8)	-	▲ 16.8
期末在庫量	35.5	34.5	41.3 (5.0)	3.3	19.6
期末在庫率	64.6%	78.8%	78.0% (…)	0.10	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.34	16.30	18.50 (17.20)	-	13.5
単収(t/ha)	3.17	2.32	3.00 (2.94)	-	29.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(11 December 2018)

OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(11 January 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】1月9日付けの中国糧油情報センターの報告によれば、作付面積は8.4百万ヘクタール、生産量は16.0百万トンの見込み。

【需給動向】11月以降、東北部産の新穀大豆が市場に流通し始め、供給量が増加した。オイルワールド誌によると、アフリカ豚コレラ等の影響により、国内での大豆粕需要の低下し、大連穀物市場における大豆先物価格は、11月下旬より低下している。

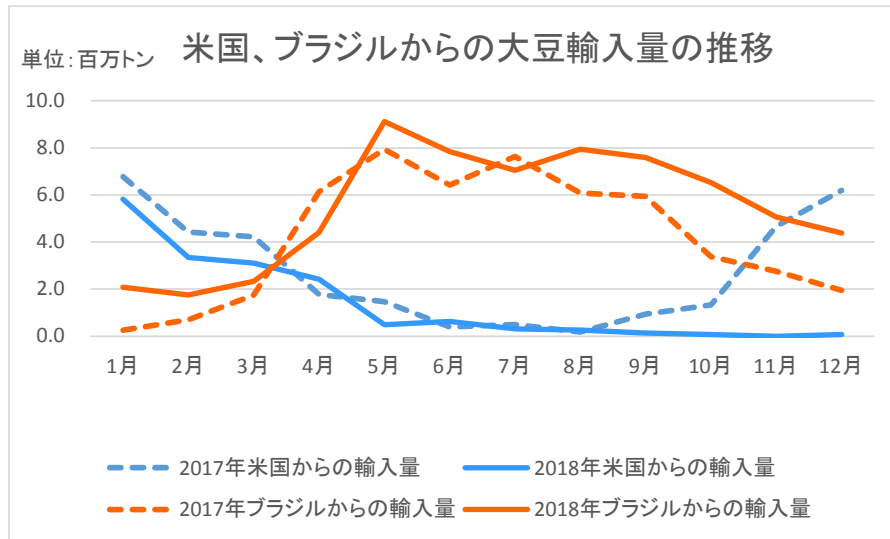
【貿易情報・その他】中国税関による1月14日発表の通関統計では、12月の輸入量は5.7百万トン。年間では、対前年比7.9%減となる88.0百万トン。年間輸入量のうち、米国からの輸入は、対前年比50%減となる16.6百万トン、一方、ブラジルからの輸入は、対前年比30%増の66.1百万トンである。

大豆－中国

USDAのデータは公表延期のため2018年12月時点のデータ (単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	13.6	15.2	16.0 (14.2)	-	5.3	
消費量	103.5	106.3	109.6 (…)	-	3.1	
うち搾油用	88.0	90.0	92.5 (87.0)	-	2.8	
輸 出 量	0.11	0.15	0.10 (…)	-	▲ 33.3	
輸 入 量	93.5	94.1	90.0 (91.0)	-	▲ 4.4	
期末在庫量	20.7	23.5	19.8 (…)	-	▲ 15.7	
期末在庫率	19.9%	22.1%	18.1% (…)	-	▲ 4.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.60	8.25	8.83 (7.10)	-	7.0	
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.00)	-	▲ 1.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(11 December 2018)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 January 2019)



資料：中国海関の統計をもとに農林水産省にて作成

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2018/19年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆	なたね
米国	18年6月～19年5月	18年9月～19年8月	18年8月～19年7月	18年9月～19年8月	
カナダ	18年8月～19年7月			18年8月～19年7月	18年8月～19年7月
豪州	18年10月～19年9月				
EU	18年7月～19年6月				
中国	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	
ロシア	18年7月～19年6月				
ウクライナ	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月			
ブラジル		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
アルゼンチン		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
タイ			19年1月～12月		
インド			18年10月～19年9月		
ベトナム			19年1月～12月		

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2018/19年度は、米国の小麦では2018年6月～2019年5月、ブラジルのとうもろこしでは2019年3月～2020年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

## 【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年1月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

### 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<b>連絡先</b> 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
--